

検診予約サイトの「マーソ」

中国に日本の医療情報提供



人間ドック・検診予約サイト運営のマーソ(東京都港区)は18日、中国最大手のSNS(会員制交流サイト)「WeChat(ウィーチャット)」上で展開する訪日中国人観光客向け無料案内サービス「案内家」に、日本国内の医療機関に関する情報を提供するサービスを始めたと発表した。

マーソは、WeChatを運営する中国IT大手テンセントの日本代理店で、訪日観光客向けの

インターネットサービスを手がけるネットスターズ(東京都中央区)と提携。マーソが検診予約サイトで取り扱う日本国内800以上の医療機関の情報を提供する。

WeChatは2011年に運営開始。16年3月現在で約6億5000万人の利用者を抱え、中国のス

マートフォン所有者の90%が利用しているという。

日本政府観光局(JNTO)によると、15年の訪日外国人客は過去最高の1973万人に達した。このうち中国人は499万人で14年の240万人から倍増した。

その中国では、医療機関での診察予約券を転売する不正が後を絶たず、予約を取るのに前日の深夜から行列を作るのが一般的。また富裕層を中心に、医療技術が進む欧米で人間ドックを受ける動きが広がっている。

マーソは14年から、人間ドック・検診予約サイトを運営しているが、「日本語によるサイトにもかかわらず、中国からのアクセスが急増している」(山口博道社長)ことから、訪日中国人に向けた情報発信を強化することにした。